

平和な未来を自分たちで創る

鶴ヶ島第一小学校 六年 江草 智樹

一九四五年八月六日午前八時十五分、この時刻まで、広島は多くの建てものがあるにぎやかな都市でした。しかし、この時刻になり、たった一発の原爆が広島街に落とされると、上空約六百メートルで爆発し、〇点二秒から三秒の間に、熱線が地上にとどき、爆心地の地面の温度は鉄がとける温度一五〇〇度をはるかにこえる、三千度〜四千度になり、爆心地から二キロメートル以内は、燃えるもの全てがもえてしまいました。さらに、爆風により、半径二キロメートル以内の家のほとんどをおしたおしました。そして、放射線により、人間の体の細胞がこわれ、病気になったり、何年もたつてから、がんを引き起こしたりしました。放射線はまだ分かっていないことが多くあるため、被爆者は今も、心と体に不安を持って、生きています。

このように原爆は人々の体や心までも傷つ

けました。その中でも一部、被爆した建物が残っています。その代表例が原爆ドームです。原爆ドームは、被爆した建物の中で、一部くずれたりせず残っている、貴重な建物です。もともと、原爆ドームは、「広島県物産陳列館」として、一九一五年四月に完成しました。チェコ人の建築家が作り、ヨーロッパ風の美しい建物でした。広島県物産陳列館は、広島で作られたものをお客さんにみせたり、商業の相談をする建物でした。また、博物館・美術館のように展覧会が開かれる所でもあり、おかしの展覧会が行われたり、日本で初めてバームクーヘンが紹介されるなど、広島の人にとっても親しまれていました。その後、「広島県立商品陳列所」、「広島県産業奨励館」と名前を変えました。戦争がはげしくなり、だんだん元の目的で使えなくなり、原爆投下の前には、国や県の事務所として使われていました。原爆が投下された時、中にいた人は全員死亡してしまいました。そして、原爆ド

ームも骨組みのみになってしまいました。
しかし、原爆ドームには、巨大なまどがつ
いていたので、爆風が外ににげ、一部はこわ
れなかったのです。原爆ドームを見て、ここ
で何があったのかを学んだことにより、平和
の尊さと、同じ過ちをくり返してはいけない
と思いました。

原爆が落とされた広島市では、核兵器をな
くすための団体があります。国が核兵器をな
くすために、他の国に呼びかけ、核兵器をな
くす約束を国同士でしようとするのですが、
核兵器を持っている国は、核兵器を持ってい
ること、他の国に攻撃されたら、核兵器を
使って攻撃するぞ！といういかくができるの
で、核兵器を持っている国とその国に守られ
ている国は参加しようとしません。だから、
国だけにまかせず、自分たちで行動している
のです。この団体には、世界中の都市や町が
参加して、いろいろな活動に取り組んでいま
す。広島の人達が、原爆を落とされた国にや

り返そうと思うのではなく、「もう同じ苦し
みは味わってほしくない」や、「二度と同じ
過ちをくり返してはいけない」などの思いで
核廃絶の活動をしていることに感動しました
。今の日本は平和です。しかし、昔あった戦
争のことや原爆のことなどを伝えていく、も
しくは知るなどのことをしないと平和は続い
ていかないと思います。そのためにも、戦争
を知らない僕たちも、戦争や原爆のことを知
り、なるべく多くの人へ伝えていくことが大
切だと思います。だから、広島に行き、感じ
たことを、学校の友達など身近な人に伝えて
いきます。このような貴重な経験をさせてく
ださい、ありがとうございます。